

実践と理論の往還

仲林 清

教育システム情報学会 会長，千葉工業大学 情報科学部 教授

教育システム情報学会の研究領域は、いうまでもなく人間をその一部として包含する教育「システム」である。人工の「システム」とは、理論に基づく予測をもって、ある意図に沿って「設計」されるものであり、「設計」の成否は、「実践」によって検証され、その結果は「理論」にフィードバックされる。このような実践と理論のダイナミックな往還が、教育システムの多様な価値を産み出していく。教育システム情報学会の大きな特徴は、実践と理論に等しく価値を置く点にあると考えられる。本講演ではこのような観点から教育システム情報学会の研究の方向性を考えてみたい。

講演者略歴

1982年 東京工業大学 理工学研究科 応用物理学専攻 修了。
2006年 早稲田大学 大学院 人間科学研究科 博士課程 修了。
NTT 情報通信研究所、NTT レゾナント、放送大学を経て、現職。NPO 法人
日本イーラーニングコンソシアム副会長。専門は、教育工学、技術標準化。